



コウホネ

國 兼 治 徳

コウホネを見ると、いつも幼児体験がよみがえる。小学校にあがる前の夏であったろう。コウホネの咲く沼に幼な友達の女の子が落ち、すんでのところ命を落とすところだった。幸い沼の縁に横たわっていた朽ちた大木につかまってことなきをえたが、泣き叫ぶ姿が今でも眼に浮ぶ。どうして落ちたのか、今は思い出せないが、その時その沼にコウホネが咲いていたのをおぼえている。その沼は私が幼年時代をすごした滝川の家の前にあった。その頃、私は祖母と暮っていたから、おそらく祖母が助けただろうし、我が家で着替えをしたように思う。その少女はいつも着物をきていた。年は私より一つ上の筈だった。近所の子供だからその後も遊んでいるはずだが、そのこと以外に思い出がない。もっとも、小学校にあがると私は祖母のもとから離れて父の家に引きとられたから、夏休みには祖母の家にもどってはいしたが、自然に遠ざかる結果になったと考えられる。

実は、その沼のコウホネだが、名前がわかった

のはずっと後のことで、私が教職について母校に勤めるようになり、部活の生徒をつれて雨竜沼の湿原に行くようになってからのことである。かつて住んでいた滝川の家の前は、その沼地を含めて一帯が流通団地に指定され、平地に造成されて見るかげもない。そもそもその沼は、空知川の氾濫によって出来たものだと聞いている。滝川の市史によると、明治23年に開村してから明治31年と大正12年に空知川が氾濫し、大水害になった記録がある。特に、明治31年には空知川の本流が変わったとさえ出ている。いつ頃形成された沼か今は知る人もないが、私の祖父母がその地に住みついたのが大正9年であるから、それ以前であることは間違いない。

さて、そのコウホネだが、変種も入れて道内には3種ある。コウホネとネムロコウホネとオゼコウホネである。家の前の沼に咲いていたのはただのコウホネだったと思う。いつも葉が水面上に突立っていたし、柱頭盤を含めて黄色の花だった記憶がある。植物に興味をもってから、比較的早い段階でコウホネを知ることが出来た。特徴のある花でもあるし、幼時の記憶が手伝ったのかも知らない。雨竜沼にはオゼコウホネがある。20年程前